

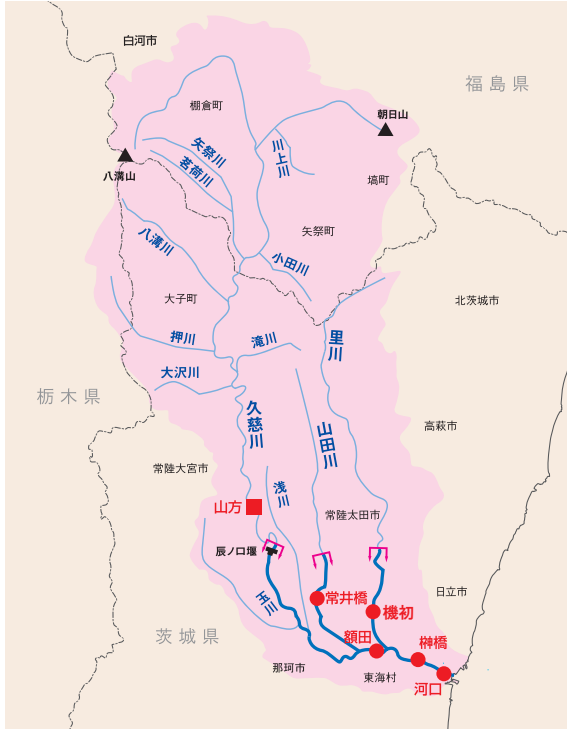
安心・うるおいを地域とともに。

河川事業の概要

～久慈川・那珂川～

久慈川流域の概要

水源 : 八溝山 (標高1,022m)
 幹川流路延長 : 約124km (一級水系中35位)
 全流域面積 : 約1,490km² (一級水系中45位)
 流域内人口 : 約20万人



■久慈川は水源を茨城・福島・栃木3県の境界に位置する八溝山 (標高1,022m) に発し、八溝山と阿武隈山との間の狭長な平野を流れて茨城県に入り、山間狭窄部を経て常陸大宮市 (旧山方町) に至って両岸が開け、山田川・里川を合わせ下流の日立市、東海村の境で太平洋に注ぎます。

■久慈川では古くから水害への備えとして、水害防備林や霞堤等の小規模な治水対策が行われていましたが、洪水による大規模な被害が度重なり、昭和13年洪水を契機として、国の直轄事業が開始されました。

■流域では、江戸時代より新田開発とあわせて、各地に堰や農業用水路等が整備されるなど、久慈川の水は灌漑用水として広域で利用されており、現在でも灌漑用水として地域の重要な水源となっています。

■久慈川は、潜り橋等の日本の原風景が多く残っており、春から初夏にかけては、遡上するアユの群れが見られ、秋には産卵のために大量のサケの群れが遡上する自然豊かな関東屈指の清流です。流域の太子町には日本三大名瀑のひとつに数えられている「袋田の滝」があり、多くの観光客でにぎわっています。

那珂川流域の概要

水源 : 那須岳 (標高1,917m)
 幹川流路延長 : 約150km (一級水系中20位)
 全流域面積 : 約3,270km² (一級水系中18位)
 流域内人口 : 約91万人



■那珂川は栃木県那須郡の那須岳 (標高1,917m) に水源を発し、支流を合わせた後、山地に挟まれた狭窄部を流下します。中流部の御前山付近より川幅が広がり、河口までの間は沖積平野となり、水戸、ひたちなか市に至る低地を一部蛇行しながら流下し、河口付近で汽水湖である酒沼を擁する酒沼川が合流し太平洋へ注ぎます。

■那珂川は古くから洪水の頻発により流域に被害をもたらしており、昭和13年洪水を契機に、昭和16年に国の直轄事業が始まりました。近年では昭和61年8月、平成10年8月の洪水では水戸市内が浸水し、大きな被害を受けています。

■流域では、江戸時代に小場江用水、備前堀、明治には那須疏水等数多くの灌漑施設が整備されるなど、那珂川の水は古くから灌漑用水として広域で利用され、現在でも農地を潤す地域の重要な水源となっています。

■清流那珂川は天然アユが多く生息し (漁獲高は全国1位 (H18年))、春から初夏にかけては、遡上するアユの群れが見られ、アユ釣りや観光やなどが風物詩となっている他、秋には産卵のために大量のサケの群れが遡上しています。さらに支川酒沼川や酒沼のヤマトシジミは、全国第3位の漁獲高を誇っています。